

「家がいいね」 第191号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2020. 4. 1

人は生き物の上に居るつもりなのか



コロナも春の野花には害を及ぼさず、多くの人々にとっても身近では無いはず。コロナで死ぬ不安と想像はネットやTVで煽られます。歴史を見れば人々は疫病の死を何度も経験してきました。しかし現代のテクノロジーなら、人は誰でも生き延びる条件があると不遜にも思っています。家畜と違うのが人類の命と思うからか、感染症に罹った鶏や豚や牛を、畜舎ごと大量に屠殺してきたのではありませんか。まるで人が神のようです。

今のマスクは文化なのかも



東京、1936年の光景です。時は2・26事件後。ガスマスクを要する演習は何だったのでしょうか。現在もマスクだらけの世です。

異様に思えます。ウィルスを防ぐ能力はなくエチケットマスクですが、強制されるとしたら変です。マスクの効用は覆い隠すこと。対人恐怖症の人には強い味方でした。皆も同じ心境なのではないでしょうか。さて指針を示さず自粛を要請するのは誠に卑怯な政治的手法だと思えます。責任ある命令を回避し、上を忖度しろ、自己責任で耐えろ、ですから。

下段は、古希になった私のモノローグです。

人は真面目に生きればよい

振り返れば、上手な生き方のできない経過でした。変化を読めず、逃げ遅れが常の基本形のようなのです。「お前、くそ真面目だな」と言われ、洒脱しようと、悪ぶってみてもダメです。変わり身ができなくて何度も同じ繰り返しをしてきたようにも思います。ようやく最近になって、この自分以外の者に成れぬと思ひ始め、腰が据わったように思います。

死んでいたかもしれない私

頭上に落ちた石の放物線がズレた19歳。交差点で間一髪だった23歳。ウツで運転もできない44歳。何とか生き延びてきました。思い出すのは死なせてしまった人々。当時の自分で助けられなかったものか。もっと言葉をかけられなかったものか。手を握ることだけでもできなかったのか。まだ私は生きていくのだろうか。



休診日のお知らせ

5月の連休期間は、暦どおりの開院です。5月30日(土)は臨時休診します。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可